

第25回ミツバチ科学 研究会に参加して

原 敬一・鳴海 周平

1月に開催された研究会において、「専門高校におけるセイヨウミツバチの教材化—自然、人、ミツバチとのリンク—」というテーマで発表させていただいた。今回の研究会は研究者のみならず、一般会員にも発表の機会があることを耳にし、日頃の取り組みをまとめるにはよいきっかけになると思い、エントリーを考えてみた。しかし何分稚拙な内容であるため、事前に研究施設長の吉田先生に目を通していただき、「近年、教育・教材をテーマにしたものが少ないので、是非」というお返事をいただき、思い切って発表を決意した。

ドキドキの心境で上京し、玉川大学のキャンパスの広さに圧倒されながら会場へと急いだ。受付を済ませ、参加者名簿を繰ってみると、養蜂家をはじめ、研究者、関係者・・・そうそうたるメンバーで、場違いなところへ来てしまったと後悔したが、隣席になった養蜂家の方からあたたかい声をかけていただき、お互いの自己紹介、近況を話し合ううちに次第にリラックスすることができた。会が始まり、主催者挨拶、研究会の経過説明が終わり、いよいよ研究発表、私の順番となった。日頃の高校での実践に



教材としてのミツバチについて発表する原氏



スズメバチ遮断柵の実物を手に発表する久志氏

ついて実習の様子を中心に発表した。決して新技術や工夫した点があるわけではないため、聴衆の方にはあまり参考になることはなかったと考えたが、生徒達が真剣にミツバチ飼育に取り組み、楽しい教材になっていることは伝わったのではないかと思われる。その後の発表も興味深い内容のものが多く、今後教材に取り入れることができるものもあった。磁場の影響、スズメバチ捕獲器、継ぎ箱の工夫、プロポリスの分類などバラエティーに富んだ内容であった。

また休憩時間や懇親会では多くの養蜂関係者の方と懇談する機会を得た。ミツバチの行動調査法、訪花観察法、増殖法など今後色々と相談やアドバイスをいただけるきっかけができたことも大きな収穫となり、楽しく充実した一日となった。

最後に、発表の機会を与えていただいたミツバチ科学研究施設各位ならびに、この取り組みを応援してくださいました多くの方々に、紙面をお借りして感謝申し上げます。今後も研究会の情報に耳を傾け、高校生と共にこのミツバチ教材をさらに発展させていきたいと思う。

原 (〒701-1334 岡山市高松原古才 336-2
岡山県立高松農業高校)

北海道から3度目となる参加をさせていただいた。毎年行われるこの研究会は興味深い発表がたくさんあり、いつも楽しみにしている。ただ、今回は少々緊張をして参加することとなった。25回目となる記念研究会ということで、各分野から10名の発表があり、自分も「栄養の宝庫・蜂っ子」という題目で講演をさせてい



蜂の子の栄養性などを発表する鳴海氏

ただくことになったためである。

吉田忠晴教授より開会のあいさつを兼ね、今までの研究会の経緯などのおはなしがあった。その後、岡山県の原氏より高校における養蜂体験の発表、長崎県の久志氏よりスズメバチ遮断柵について、群馬県の大竹氏よりスズメバチ捕獲器の開発に関する発表があった。

午後からは日本在来種みつばちの会藤原代表よりニホンミツバチ、セイヨウミツバチ共用人工巣脾について、神奈川県田口氏より継ぎ箱採蜜ローテーションについて、静岡県中西氏よりミツバチが電磁波から受ける影響について、エム・エス・イー研究所高橋代表よりマヌカ・ハニーについての発表があった。

休み時間を挟んでいよいよ自分の発表の時間となった。アドリブが多かったためか時間が少し不足してしまい、せっかくご質問いただいた方には申し訳なく思っているが、おおむねお伝

えしたいことはご理解いただけたのではないかと、思っている。その後、玉川大学大学院農学研究科の笠原さんよりアジアプロポリスの物理化学的多様性について、日本プロポリスの緑川氏よりプロポリスの品質評価についておはなしがあった。小野正人助教授より昨年開催された第6回アジア養蜂研究協会大会および第14回国際社会性昆虫学会議についての報告があった。休み時間を挟んで、佐々木正巳教授より「ミツバチの脳はどこまで賢いか？」と題して、今後のミツバチの研究についての可能性に関するおはなしがあった。

10名が各分野について発表をするという初めてのスタイルは、皆の参加意識を高めるうえでも、たいへん良かったのではないと思う。いっそうミツバチが身近に感じられ、私のような直接生産に携っていない者でも、とても興味深く勉強させていただくことが出来た。

1日を通してハチの子を紹介させていただいたブースもたいへんな賑わいとなり、盛況のうちに閉会、そして懇親会。参加させていただくたびに新しい知識を得ることができ、素晴らしい出会いの場ともなるこの研究会。今回もたいへん有意義な1日を過ごさせていただいたことに感謝するとともに、ミツバチ科学研究会の今後ますますの発展を祈念したい。

鳴海（〒043-0104 爾志郡乙部町字館浦 686-2
株式会社 ナルミ）



佐々木教授の発表にて（講演に聴き入る会場を埋めた参加者）